諏訪市埋蔵文化財調査報告第７１集

御幣平Ａ

－長野県諏訪市御幣平Ａ遺跡第４次発掘調査報告書－

２０１３．３
諏訪市教育委員会
御幣平Ａ遺跡発掘調査団

諏訪市埋蔵文化財調査報告第７１集

御幣平（おんべだいら）A

－長野県諏訪市御幣平Ａ遺跡第４次発掘調査報告書－

２０１３．３
諏訪市教育委員会
御幣平Ａ遺跡発掘調査団

御幣平A遺跡遠景（西上空から）

第4次調査区全景（東から）

例　言

1．本書は、長野県諏訪市清水所在の御幣平Ａ（おんべだいらえー）遺跡の発掘調査報告書である。
2．本調査は、開発事業者である長野県諏訪清陵高等学校より発掘調査委託を受けた、諏訪市教育委員会の編成する御幣平Ａ遺跡発掘調査団が調査を担当した。
3．現地における発掘調査は平成 24 年 7 月 17 日から 8 月 10 日まで実施した。遺物整理および報告書作成作業は平成 24 年 8 月から平成 25 年 3 月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で実施した。
4．調査組織である御幣平Ａ遺跡発掘調査団については第Ⅰ章第 2 節に示した。
5．調査における記録と整理作業の分担は次のとおりである。
　遺構等実測……児玉利一・赤堀彰子・古畑しずゑ
　遺物水洗・注記・復元作業……赤堀・古畑
　遺物実測・拓本……児玉・赤堀・古畑
　実測図トレース・遺物写真撮影・図面写真整理……児玉・赤堀
6．本書の執筆・編集は児玉が担当した。
7．本調査（第 4 次）における出土遺物への注記は「ＯＢＤＡ4」とした。
8．発掘調査に関する諸記録・出土遺物は、諏訪市教育委員会で保管している。
9．発掘調査および報告書作成にあたり、下記の方々にご指導・ご教示を得た。記して感謝申し上げる。
　長野県教育委員会高校教育課　株式会社大同建設　諏訪市博物館　（敬称略）

凡　例

1．「第 1 図御幣平Ａ遺跡位置図」には、建設省国土地理院発行 1/5 万分地形図「諏訪」、「高遠」を縮小使用した。
2．巻頭カラー図版「御幣平Ａ遺跡遠景」は、長野県諏訪清陵高等学校所蔵の写真を借用した。
3．挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。
　調査区位置図…1/1,000、調査区全体図…1/100、各遺構平面図・断面図…1/60、遺物…1/2
4．発掘調査におけるレベル原点は標高 778.605ｍをベンチマークとして使用し、遺構断面図に標記した水準数値は海抜標高を示している。

目　次

巻頭カラー図版

例言・凡例

目次

挿図目次・写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯

　1　保護協議の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

　2　調査組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　調査の概要

　1　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

　2　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　3　過去の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　4　調査の方法と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅲ　発見された遺構と遺物

　1　竪穴建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

　2　小竪穴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

　3　性格不明遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

　4　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

Ⅳ　調査の成果とまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

写真図版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

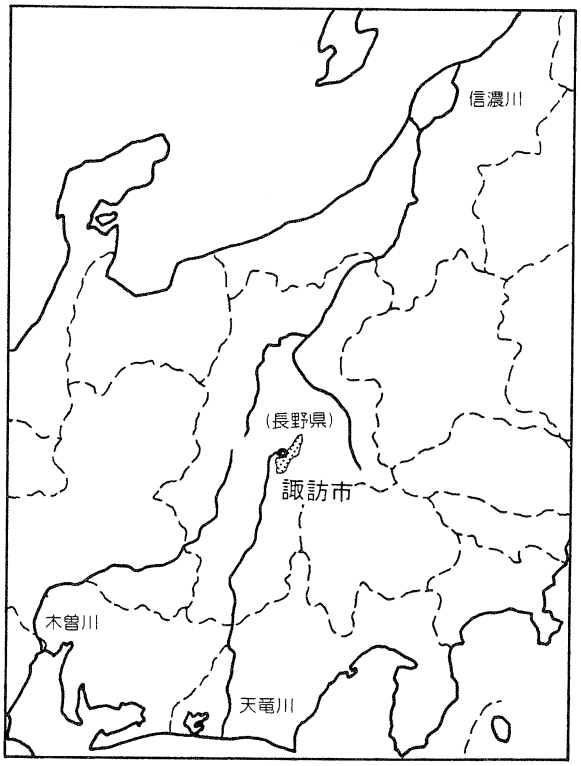
報告書抄録

挿図目次

第１図　御幣平Ａ遺跡位置図・・・・・２
第２図　周辺遺跡位置図・・・・・・・３
第３図　調査区基本土層図・・・・・・４
第４図　過去の調査位置図・・・・・・５
第５図　調査区全体図・・・・・・・・８
第６図　１号竪穴建物跡遺構図・・・・９
第７図　１号竪穴建物跡出土遺物・・・９
第８図　小竪穴・性格不明遺構平面図・・・・・１１
第９図　１号小竪穴断面図・・・・・・・・・・１１
第10図　１号小竪穴出土遺物・・・・・・・・・１１
第11図　１号性格不明遺構断面図・・・・・・・１１
第12図　１号性格不明遺構出土遺物・・・・・・１１
第13図　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・１２

写真図版目次

巻頭カラー図版　御幣平Ａ遺跡遠景
　　第４次調査区全景
図版１　御幣平Ａ遺跡全景
　　調査区調査前状況
　　調査区全景
図版２　遺構確認面（西から）
　　遺構確認面（東から）
　　１号竪穴建物跡
図版３　１号竪穴建物跡土器出土状況
　　１号小竪穴・１号性格不明遺構掘り下げ前
　　１号小竪穴完掘
図版４　１号性格不明遺構土層堆積状況
　　１号性格不明遺構完掘（南から）
　　１号性格不明遺構完掘（北から）
図版５　１号小竪穴・１号性格不明遺構完掘
　　調査風景
　　高校生の発掘体験風景
図版６　１号竪穴建物跡出土遺物
　　１号小竪穴出土遺物
　　１号性格不明遺構出土遺物
　　遺構外出土遺物



Ⅰ　調査に至る経緯

1　保護協議の経過

平成23年7月、諏訪市清水1－10－1長野県諏訪清陵高等学校敷地内について、長野県教育委員会高校教育課高校改革推進係より学校校舎建設計画があるため、埋蔵文化財包蔵地の照会が諏訪市教育委員会生涯学習課文化財係にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である御幣平A遺跡の範囲内にあたるため、発掘通知の提出を依頼した。また、遺構の分布状況などが不明であるため、試掘・確認調査を行い、改めて保護協議を行うこととした。試掘・確認調査を平成23年8月8日から12日にかけて行い、竪穴建物跡とみられる遺構平面が検出され、ほかにも遺構が残されている可能性があることが判明した（第3次調査）。この結果を受けて事業者および長野県教育委員会文化財・生涯学習課文化財係と協議を行ったが、計画変更などは行うことは出来ず保護が難しいと判断されたため、工事に先立ち記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。発掘調査は学校の夏季休暇中である7月後半から8月中旬にかけて行うこととした。

調査は諏訪市教育委員会の編成する御幣平A遺跡発掘調査団が、事業者である長野県諏訪清陵高等学校からの業務委託を受けて実施することとなり、平成24年7月6日付けで発掘調査委託契約を締結し、調査に至ったものである。

2　調査組織

御幣平A遺跡発掘調査団

団　　長	小島雅則　（諏訪市教育委員会　教育長）
副 団 長	高見俊樹　（諏訪市教育委員会　教育次長）
	宮坂光昭　（諏訪市文化財専門審議会　委員）
調査担当	児玉利一　（諏訪市教育委員会　学芸員）
調査団員	赤堀彰子・古畑しずゑ
体験参加	北原秀俊・中村　建・土田光明・武居真穂・下平浩輝・笠原美奈代・
	朱　香綸・春日　伸（諏訪清陵高校地歴同好会）

事務局

事務局長	亀割　均（諏訪市教育委員会生涯学習課　課長）
事務主幹	田中　総（諏訪市教育委員会生涯学習課文化財係　係長）
事務局員	関沢佳久・児玉利一（諏訪市教育委員会生涯学習課文化財係）

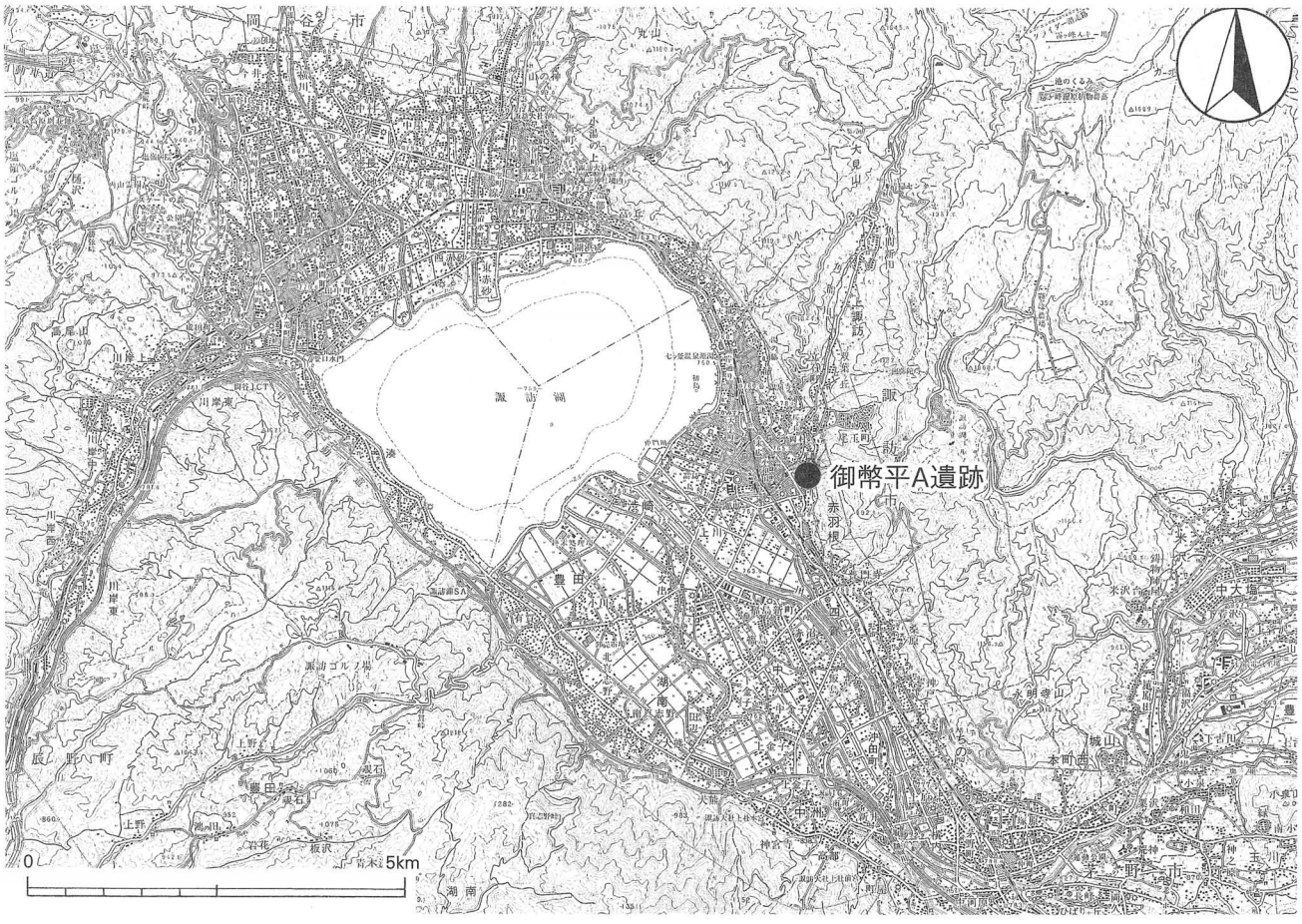
Ⅱ　調査の概要

1　遺跡の位置と環境

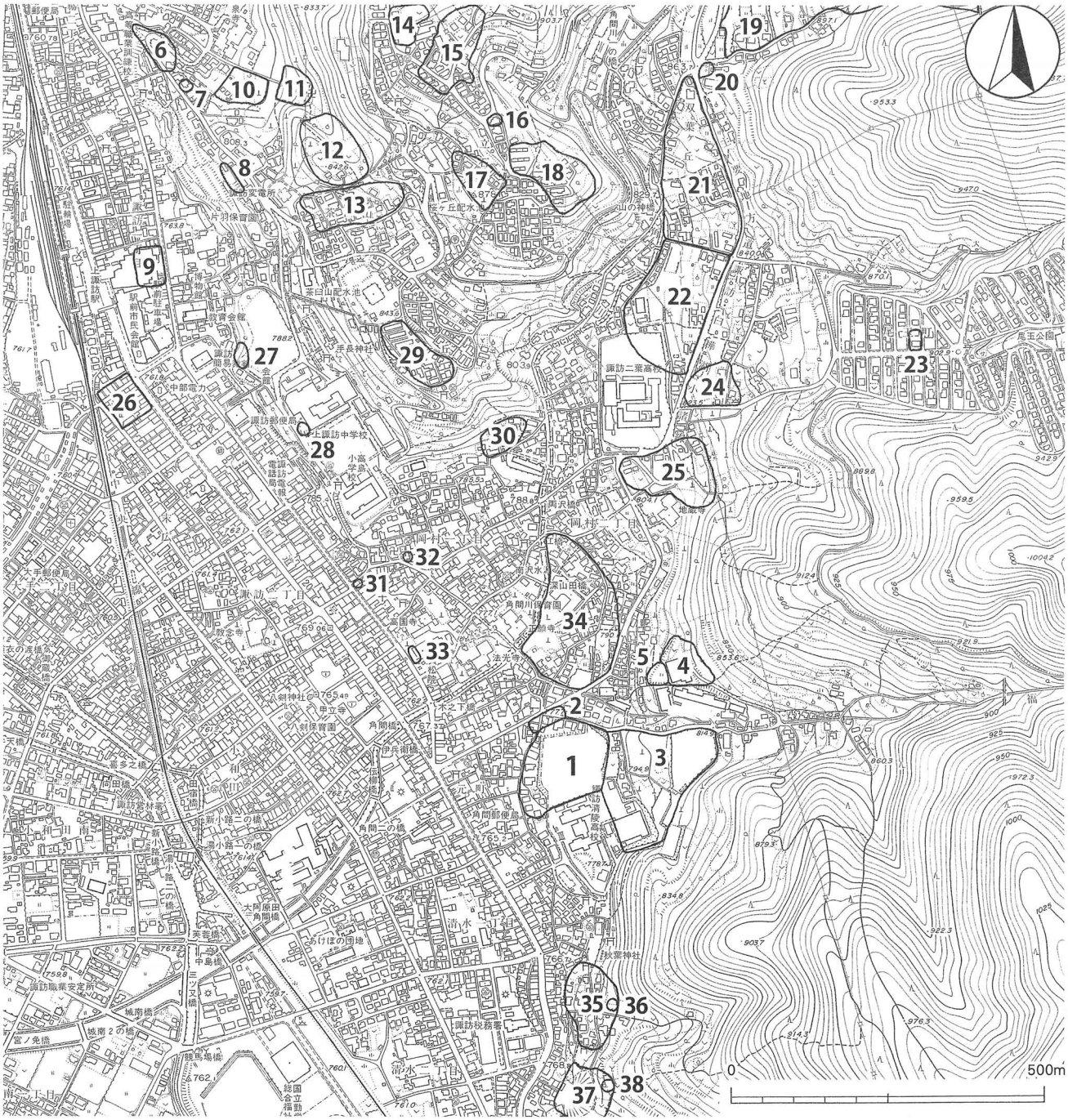
本州のほぼ中央部、標高海抜 759mの諏訪湖を中心に広がる諏訪盆地は、フォッサ・マグナの西縁を画する糸魚川－静岡構造線に沿って形成された構造盆地である（第１図）。周囲を北部から東部にかけて高ボッチ山、鉢伏山、三峰山や霧ヶ峰、八ヶ岳などに、また南部から西部にかけては守屋山や入笠山などの山々によって囲まれた狭小な盆地である。諏訪湖の北側、現在の岡谷市から下諏訪町の一部は緩やかな傾斜を持った扇状地となっているが、湖の南側、現在の諏訪市側の中心部分は低い平坦地が広がっている。

御幣平Ａ遺跡は諏訪盆地の北方、霧ヶ峰の山塊西縁部に源を発し諏訪湖に流れ込む角間川の下流付近に位置している。諏訪湖東岸の山麓部には断層活動の結果による地形と考えられる階段状の台地が何段も形成されているが、本遺跡は盆地への出口付近の扇状地で角間川に流入する支流福沢川の左岸にあり、この階段状台地平坦面の二・三段目に立地する。この台地は東南方向の背後に急峻な山塊をもち、北西方向は諏訪盆地平坦部に向かって大きく開いている。背後の山地や福沢川によって形成された深い谷は現在でも恵まれた自然環境を保っており、古代の人々にとっても活発な生産活動の場を提供していたと考えられる。

御幣平Ａ遺跡は現在の諏訪清陵高等学校敷地北半とその西側住宅域を一部含む範囲である（第２図）。現在は校庭として整備されているが、かつては縄文時代から弥生時代にかけての土器・石器など多くの



第1図　御幣平Ａ遺跡位置図（S=1/100,000）



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	**御幣平A遺跡**	**縄文～近代**	20	山の神古墳	古墳
2	御幣平B遺跡	古墳	21	穴場遺跡	縄文・平安・近世
3	大ダッショ遺跡	縄文～平安	22	百姓地遺跡	縄文・平安
4	一時坂遺跡	縄文～平安	23	尾玉遺跡	縄文・平安・中世
5	一時坂古墳	古墳	24	カジバ畑遺跡	平安・中世
6	天神山城跡	旧石器・中世	25	若宮遺跡	縄文・平安
7	天神山道上遺跡	旧石器	26	柳口周辺遺跡	近世
8	天神山道下遺跡	旧石器	27	手長丘遺跡	旧石器・古墳
9	片羽町遺跡	旧石器～弥生・平安	28	手長丘古墳群	古墳
10	温泉寺横遺跡	旧石器	29	茶臼山遺跡・茶臼山古墳群	旧石器・古墳
11	高島藩主廟所	近世	30	綿の芝遺跡・綿の芝古墳	縄文・古墳
12	上ノ平遺跡	旧石器・近世	31	小川屋前遺跡	縄文
13	二本松遺跡	平安	32	不動尊前遺跡	縄文
14	合戦場遺跡	旧石器	33	貞松院入口遺跡	縄文
15	北踊場遺跡	旧石器	34	南沢遺跡	縄文・奈良・平安
16	踊場古墳	古墳	35	清水窪遺跡	縄文～古墳
17	踊場下遺跡	旧石器・縄文	36	大石古墳	古墳
18	踊場遺跡	旧石器・縄文	37	アカッパナ遺跡	縄文・弥生・平安
19	唐沢遺跡	縄文・古墳～中世	38	赤羽根古墳	古墳

第2図　周辺遺跡位置図(S=1/10,000)

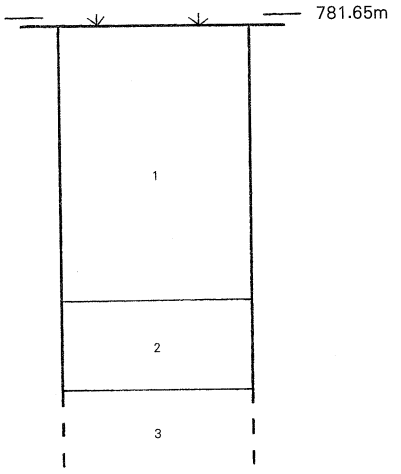
遺物が出土したという。また、本遺跡北側に隣接する御幣平B遺跡は土師器片や石製模造品が過去に出土し、古代の祭祀遺跡とみられている。斜面上方（東側）に隣接する大ダッショ遺跡は縄文時代を中心とした集落遺跡である。昭和59年に諏訪清陵高等学校の全面改築・拡張工事に先立ち発掘調査が行われ、縄文・弥生・古墳各時代の竪穴建物跡を中心に多くの遺構・遺物が出土している。(1) なかでも、縄文時代中期新道式期の4軒の住居跡は地形に沿って弧状に並んで検出され、該期の集落形成を考えるのに貴重な資料となった。7号住居跡と12号住居跡から出土した有孔鍔付土器は特異な形状・文様を施しており注目されるものである。

福沢川を挟んだ右岸上方には一時坂遺跡・一時坂古墳がある。昭和57年に市立諏訪中学校の体育館建設工事に伴い行われた発掘調査で5世紀末頃の古墳（一時坂古墳）が発見され、主体部からは4基の木棺直葬が検出され直刀・鉄剣や鉄鏃など多くの副葬品が出土した。(2) また、周溝内から墓前祭祀行為をしたと考えられる土器集積が複数ヶ所見つかった。その他、周溝墓3基、縄文・弥生時代の住居跡が14軒検出されている。

御幣平A遺跡は前述のとおり、角間川の支流福沢川の左岸台地にある。角間川をさかのぼる谷筋は古くから諏訪盆地から霧ヶ峰・和田峠を経て上田・小県方面に向かう主要な往還のひとつであり、古代東山道の予想されている谷でもある。一方、福沢川をさかのぼる狭い谷筋は福沢山を経て霧ヶ峰方面に至る小道路があり、過去においても角間川筋の本道に伴う支道的役割をもっていた可能性もある。御幣平・大ダッショ・一時坂の各遺跡は交通の要衝に隣接して営まれた遺跡と捉えることもできるだろう。

2　基本土層

調査区の南西で観察した基本土層について記述する（第3図）。旧地形は東から西に向かって傾斜していたが、学校校舎建設や校庭として造成を行った際に平坦にするため斜面東側を大きく削り、西側は2m以上の盛土がされている。校庭であるため表層は砂と砂利が10ｃｍ程度敷かれ、その下には過去数回にわたる大規模な工事造成土（1層）がある。斜面上方（東側）は1～1.5mで、西側ほど厚くなり西端で2m以上盛られている。巨石や鉄筋コンクリート片が多く含まれる土で、固くしまっている。造成土下は黒色土（2層）で若干遺物が包含されている。自然堆積土に小石が混ざる。固くしまっている。3層はローム層で遺構確認面となっている層である。ローム土自体はきれいであるが大小様々な岩石が含まれ二次堆積土であるとみられる。過去においては山体崩落や土石流などが発生していたことを想像させるものである。



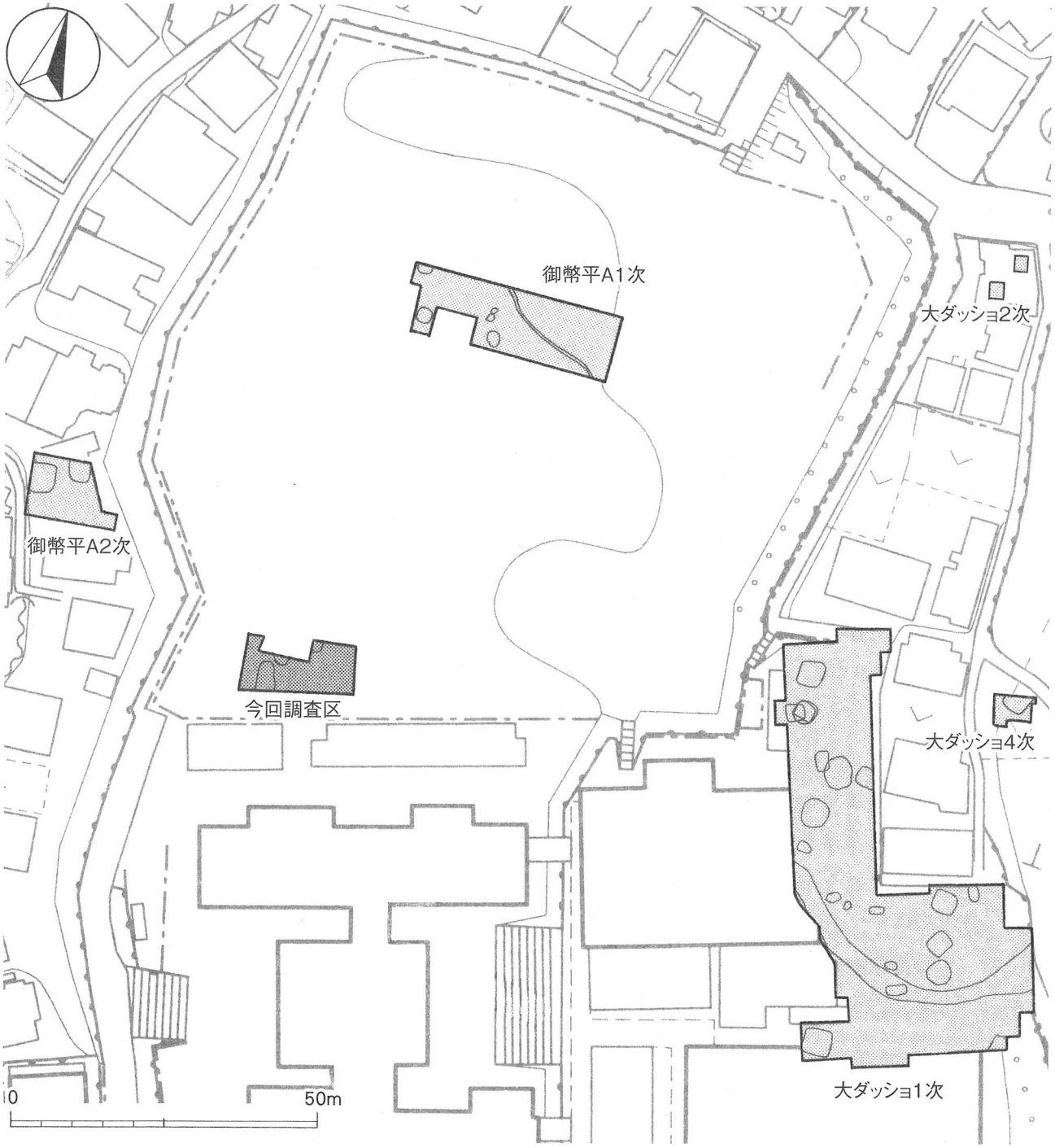
調査区基本土層

層	色調	土質	粘性	しまり	混入物/その他
1	暗灰～褐色	粗い	なし	しまる	現校舎建設時の造成土、瓦礫多量
2	暗灰～黒色	細かい	ややあり	しまる	造成以前の表土、石・炭化物含
3	暗黄褐色	細かい	ややあり	しまる	二次堆積ローム土、大小石含

第3図　調査区基本土層図(S=1/60)

3　過去の調査

御幣平Ａ遺跡は過去に３度発掘調査を実施している（第４図）。第１次調査は昭和62年に高校の校舎全面改築工事に先立ち、遺構の有無を把握するため校舎中庭部分の約300㎡について試掘確認調査が実施された。その結果、古墳時代とみられる集石遺構３基と小竪穴２基、近代以降とみられる石垣と水路状遺構が検出された。１号集石は拳大から人頭大の自然石を円形に集積したもので、確認面で直径約２ｍの規模である（写真1）。２号集石も類似した構造であり土師器片・円盤形石製品を伴う。３号集石は方形になる可能性があるがやや不明確であった。水路状遺構は両岸に石垣を組み、幅約40ｃｍ、深さ約30ｃｍの断面方形で調査区北側から東側に向かい斜面端部に沿って弧状に延びていた（写真2）。



第4図 過去の調査位置図(S=1/1,000)

出土遺物は近代以降の陶磁器片が数量では多いが、古墳時代の土師器（特に高坏）の破片も比較的多く出土した。石製品は輝石安山岩（鉄平石）の縁辺部を打ち欠いて製作した円盤形の石製品が十数点出土した。直径3.5～8ｃｍ、厚さ1～2ｃｍほどで、それらの一部は集石遺構に伴っていたという。1次調査では遺構が確認され、それらは隣接する御幣平Ｂ遺跡と同様な祭祀的性格の遺構の可能性があることが分かった。

第2次調査は平成9年に個人住宅建設に先立ち行われた。[3] 約100㎡を調査し、近世の鋳物屋にかかわる排滓廃棄土坑と地下蔵とみられる遺構を検出した。1号土坑は直径約4m、深さ約1.5mの規模で内部からは多量の鉄滓や鋳型の破片、陶磁器類などが幾層にも重なり検出された（写真3）。当該地は江戸時代の高島藩御用鋳物屋があったとされる一角であったことから、検出された遺構・遺物は鋳物屋に関連するものであると考えられた。絵図や文献から存在は想定されていたが、実際に近世の城下町遺構の一端を発掘できた点で重要な調査といえるだろう。

第3次調査は平成23年に、今回の調査地で行った試掘・確認調査である。[4] 校庭南端に試掘トレンチを1本設け、竪穴建物跡の一部とみられる遺構平面を検出し、造成土の下層に往時の土層が残されていることが判明した。

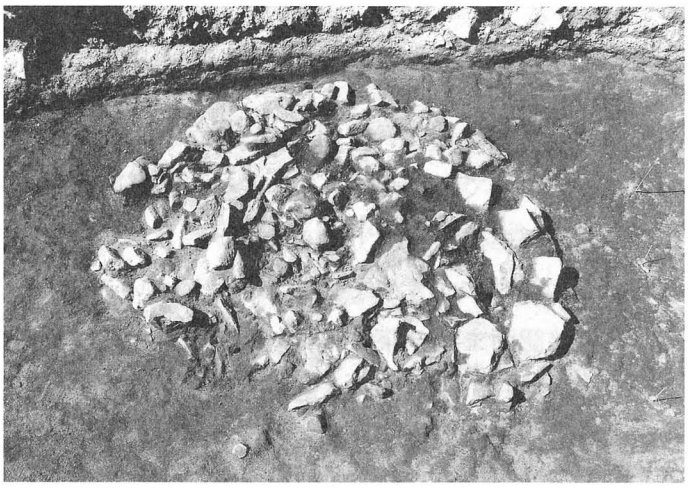


写真1　1号集石

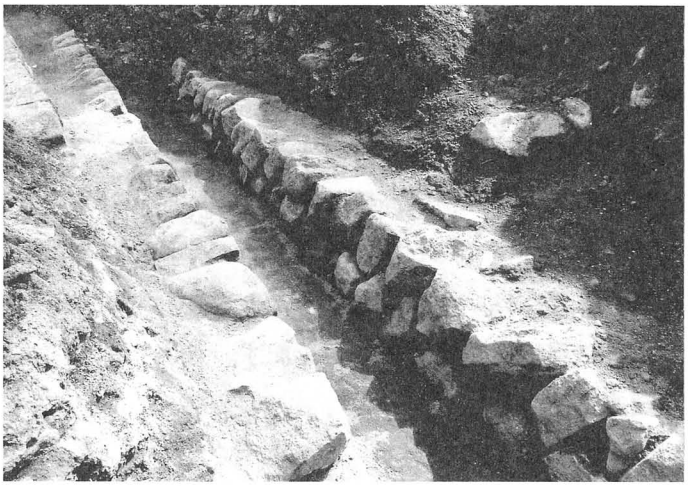


写真2　水路状遺構

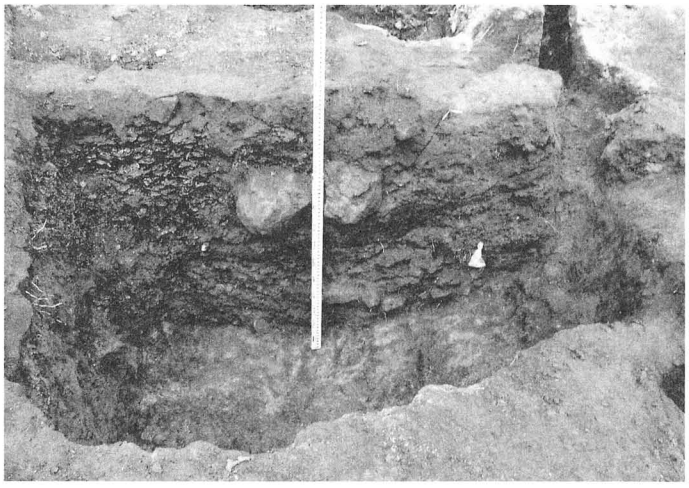


写真3　1号土坑断面

注

(1) 諏訪市教育委員会 1986「大ダッショ - 長野県諏訪市大ダッショ遺跡発掘調査報告書 - 」

(2) 諏訪市教育委員会 1988「一時坂 - 長野県諏訪市一時坂遺跡第一次発掘調査報告書 - 」

(3) 諏訪市教育委員会 1998「市内遺跡試掘調査報告書（平成9年度）」

(4) 諏訪市教育委員会 2012「市内遺跡発掘調査報告書（平成23年度）」

4　調査の方法と概要

現地での発掘調査は平成24年7月17日より開始した。新校舎建設予定地は学校敷地中央部の部室棟および校庭南端で、東西棟コンクリート造り3階建ての建物を建築するものであった。建築面積618.7㎡のうち、部室棟部分はすでに遺構が残されていないと判断し、校庭部分については試掘調査により東側約30mは造成によりすでに破壊を受けていることが判明したことから、西側の約190㎡を対象とした。ただし、確認面までの深さがあったことから階段状に掘り下げを行い、また、学生の校庭使用があったことと水道施設の埋設があったために安全性を考慮し掘削できなかった範囲もある。よって最終的な遺構確認面は約130㎡にとどまった。表土と盛土造成土は重機により掘削し、ローム層上面からを人力によって掘り下げを行った。遺構平面図作成は平板測量で行い、写真撮影は35mmカラーフイルム、同モノクロフイルム、カラーリバーサルフイルム、デジタルカメラの4種類を使用した。排土は調査区の東隣に行った。掘削深度は深い所で3mに達し、かつ廃棄されていたコンクリートや巨石などが多く、確認面まで到達するのに日数を要した。また、夏季であったため夕立や局所的な豪雨が度々襲い、その度に調査区が冠水するなど苦労することがあった。

調査の中頃では清陵高校の生徒で、地歴同好会の会員が発掘体験として参加した。猛暑のなか、慣れない道具を使って熱心に作業を行ってくれた。普段通っている学校の下に、遺跡が眠っていることを認識してもらう良い機会ともなったと思う。

以下に現地調査経過の概要を記す。

調査日誌（抄）

7月17日	晴れ	現場設営
18日	晴れ	重機搬入、調査区重機により表土掘削
19日	晴れ	調査区重機により表土掘削
20日	曇り/雷雨	重機により表土掘削、遺構確認面の精査
23日	晴れ	排水作業後重機掘削、重機による作業終了
24日	晴れ/曇り	遺構確認面の精査
25日	晴れ/曇り	遺構確認面の精査、全景写真撮影
26日	晴れ	1号竪穴建物跡・1号性格不明遺構の掘り下げ、高校生発掘体験
27日	晴れ	1号竪穴建物跡完掘・写真撮影、1号性格不明遺構の掘り下げ
31日	晴れ	1号性格不明遺構ベルト写真撮影・断面図作成
8月1日	晴れ	1号性格不明遺構・1号小竪穴完掘
2日	晴れ	1号性格不明遺構・1号小竪穴写真撮影、1号竪穴建物跡・1号小竪穴断面図・調査区全体図作成
3日	晴れ	遺構平面図作成、測量
7～9日	晴れ	重機により埋め戻し、砂入れ
10日	晴れ	転圧・整地、重機・機材搬出、現地調査終了

Ⅲ　発見された遺構と遺物

1　竪穴建物跡

1号竪穴建物跡

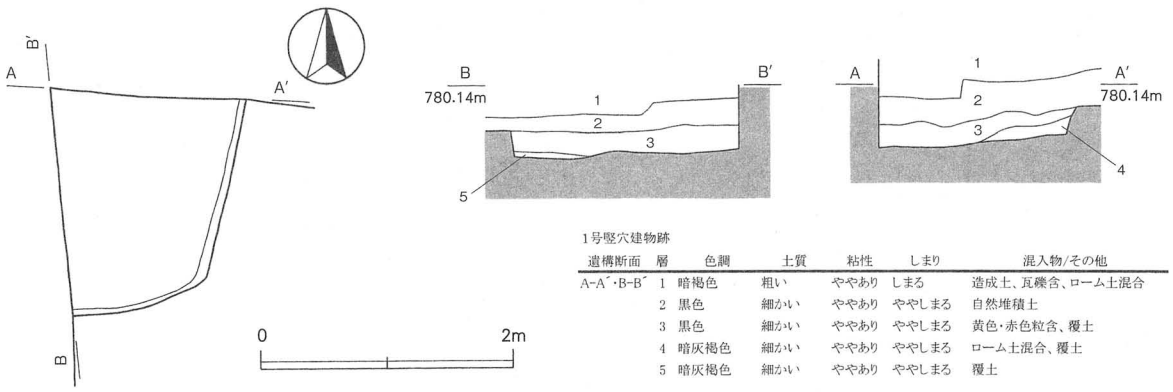
調査区中央北側で検出（第5・6図）。建物跡南東隅のみの検出で大部分は調査区外に続いている。上層は造成工事により削られているが、かろうじて床面近くが残されていた。遺構確認面は黒色土層からローム漸移層にかけてで、遺構内覆土はしまらない黒色、わずかに土師器の細片が出土した。確認面から10ｃｍ程度で床面となる。ローム層上面を少し掘り込んでおり、掘り込み範囲は南北約1.9m、東西

第5図　調査区全体図(S=1/100)

約 1.5m。建物の建築方位はほぼ方角に沿っているようである。ただし、確認された範囲がわずかであり確かなものではない。床は硬化しておらず、ローム土の地山には石が多量に含まれ、きれいな状態の床面ではない。

出土遺物ついては、調査区の隅で小型の甕が出土した。床面からは僅かに浮き、横倒しになった状態で出土した。本建物跡に伴う遺物と判断される。そのほかには土師器の小破片ばかりであった。第７図１は前述の小型甕である。口径８.５ｃｍ、底径６.５ｃｍ、器高７.７ｃｍ。平底で削りとナデ調整されている。体部外面は削りとナデ、下端は指ナデ痕跡を明瞭に残す。口縁は横方向にロクロナデされ僅かに外反する。器面の剥離が目立つ。内面は黒色で、体部は削り痕跡を明瞭に残し口縁部は細かな横ナデを施している。時期は古墳時代後期と推定される。２ は土師器高坏の坏身小片である。胎土は精緻で焼成良好、外面は縦方向にまばらに細いミガキが入る。内面は摩耗により不鮮明である。古墳時代中期から後期にみられる高坏と考えられる。３・４は覆土内から出土した弥生土器であり、本建物跡に帰属するものではない。３ は壷の頸部で縦方向にハケナデ調整したのち、横位の沈線をつけ区画内に細かな縄文が配される。胎土には石英・白色粒など多く含まれる。弥生時代中期後半と推定。４ は甕または壷の口縁部で、外傾し端部は丸く肥厚する。口唇部は狭小な面取りをしたあと細かな櫛描波状文を施文している。胎土には小石が多く焼成は不良で軟質である。弥生時代後期とみられる。

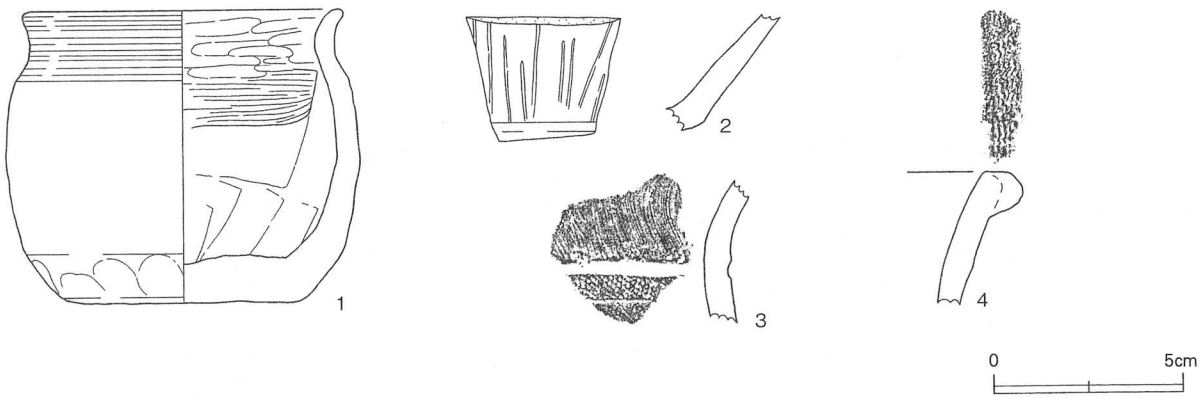
遺構の年代は、出土遺物１・２の年代から古墳時代中期～後期と推定される。



1号竪穴建物跡

遺構断面	層	色調	土質	粘性	しまり	混入物/その他
A-A′・B-B′	1	暗褐色	粗い	ややあり	しまる	造成土、瓦礫含、ローム土混合
	2	黒色	細かい	ややあり	ややしまる	自然堆積土
	3	黒色	細かい	ややあり	ややしまる	黄色・赤色粒含、覆土
	4	暗灰褐色	細かい	ややあり	ややしまる	ローム土混合、覆土
	5	暗灰褐色	細かい	ややあり	ややしまる	覆土

第6図　1号竪穴建物跡遺構図(S=1/60)



第7図　1号竪穴建物跡出土遺物(S=1/2)

2　小竪穴

1号小竪穴

調査区西側で検出(第8図)。調査時3号性格不明遺構としたが規模・形状から1号小竪穴と変更する。平面形は円形で最大幅1.85mあるが、調査区外に続いているため全体は不明。深さは約40ｃｍで断面形は浅い逆台形に近い（第9図)。埋土は黒色土で礫と土器片が少量含まれていた。出土遺物では土師器の小片が数点出土した。第10図は遺構底部から出土した土師器の埦である。外面はナデ調整とミガキが施され、内面は横方向に細かなミガキを密に施している。胎土は精緻で焼成も良好。黄赤褐色で外面には黒斑がある。遺構の年代は出土土師器から古墳時代中期～後期と推定。

3　性格不明遺構

1号性格不明遺構

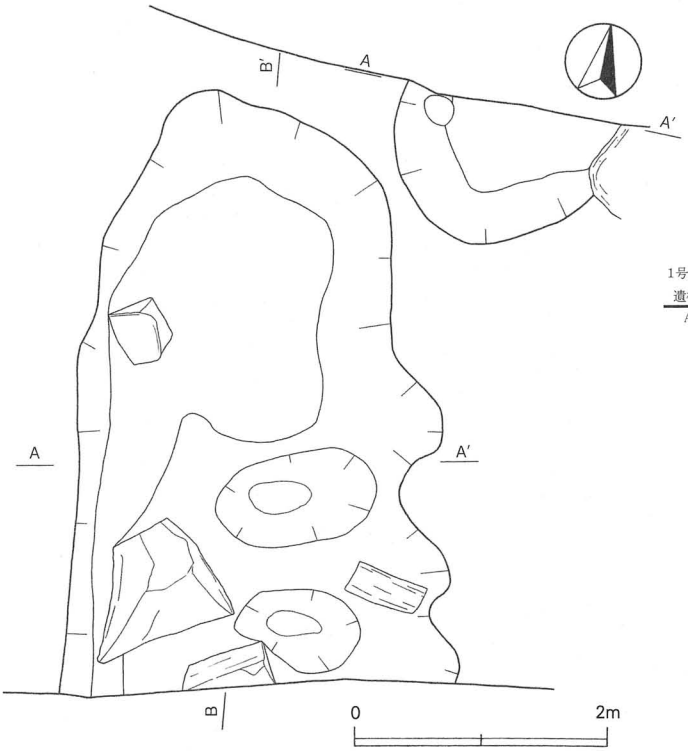
調査区西側で検出。1号性格不明遺構とした（第8・11図)。南北に長く不整楕円形とも溝状ともいえよう。南側調査区外にのびている。南北4.8m、東西最大幅3.2m、深さ50ｃｍである。西側はほぼ垂直に立ち上がり東側は緩やかに立ちあがる。底面は地山を掘りこんだままで他の痕跡はない。内部には石が多く、石捨て穴のような雰囲気があった。出土遺物は少なく、石や覆土と混在して出土した。縄文土器が数点、弥生、古墳、平安時代の土器、近代と思われる陶磁器片まで含まれていた。なお、調査時2号性格不明遺構としたものは、精査の結果、地形の起伏と判断するに至ったため欠番とした。

第12図1は縄文時代前期初頭の土器で胎土に繊維を多量に含み、縄文施文される。2は弥生時代中期と推定される壷の頸部で、横位の区画沈線内に簾状櫛描文が施される。焼成は良くない。3は弥生時代中期後半の甕口縁部で、外面はナデ調整後に5本1単位の櫛描文を横位に配す。口唇部は縄文が施文されている。内面は細かなナデ調整を加える。4は須恵器甕の体部片である。外面は平行叩き痕が残り、内面はナデ調整されている。摩耗している。5は土師器坏の口縁部である。内面は黒色処理が施されている。平安時代の所産とみられる。6は土錘である。直径3ｃｍ、長さ4ｃｍで、手づくね成形されている。直径7ｍｍの穿孔がされている。中世以降のものである。

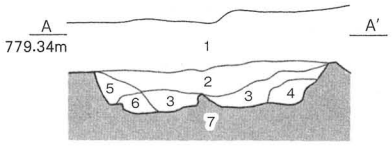
本遺構の年代は出土遺物の下限から近代以降とみられ、土取り穴か石捨て穴の可能性がある。

4　遺構外出土遺物

調査区全体での出土遺物はあまり多くはなく、土師器大型品（甕または壷）の破片と近代以降の陶磁器片が多い。遺構出土以外の調査区一括出土の遺物のうち、時代が古く特徴的なものについて掲載する。第13図1は弥生時代中期～後期の甕片である。櫛描波状文が5条1単位を2段施文されている。2から6は土師器である。2は土師器高坏の坏部から脚部にかけての部分である。焼成は良好でミガキ調整がみられる。3は土師器埦の口縁部である。体部から少し内湾して立ちあがったあと強く外反させる。古墳時代中期～後期にみられる丸底深埦器形のものであろう。胎土は精緻で器厚が薄く焼成も良い。4は土師器の鉢または小型甕と考えられる。口縁部は横ナデ、体部は細かなナデ。内面はハケ調整と粗いナデ調整されている。5は壷の底部から体部にかけての部位である。外面は縦方向に密にナデとミガキを施



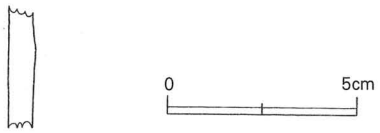
第8図　小竪穴･性格不明遺構平面図(S=1/60)



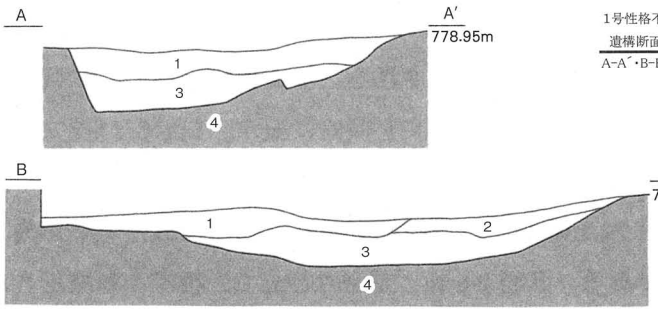
1号小竪穴

遺構断面	層	色調	土質	粘性	しまり	混入物/その他
A-A′	1	暗褐色	粗い	なし	しまる	造成土、小石多量
	2	暗褐色	細かい	なし	ややしまる	小石・黄色粒含
	3	暗褐色	細かい	なし	ややしまる	ローム土混
	4	暗褐色	細かい	なし	しまらない	鉄平石小片多量
	5	暗褐・黄褐色	細かい	なし	ややしまる	小石・ローム土混
	6	黄褐色	細かい	なし	ややしまる	ローム土、
	7	黄褐色	細かい	なし	しまる	地山、二次堆積ローム土

第9図　1号小竪穴断面図(S=1/60)



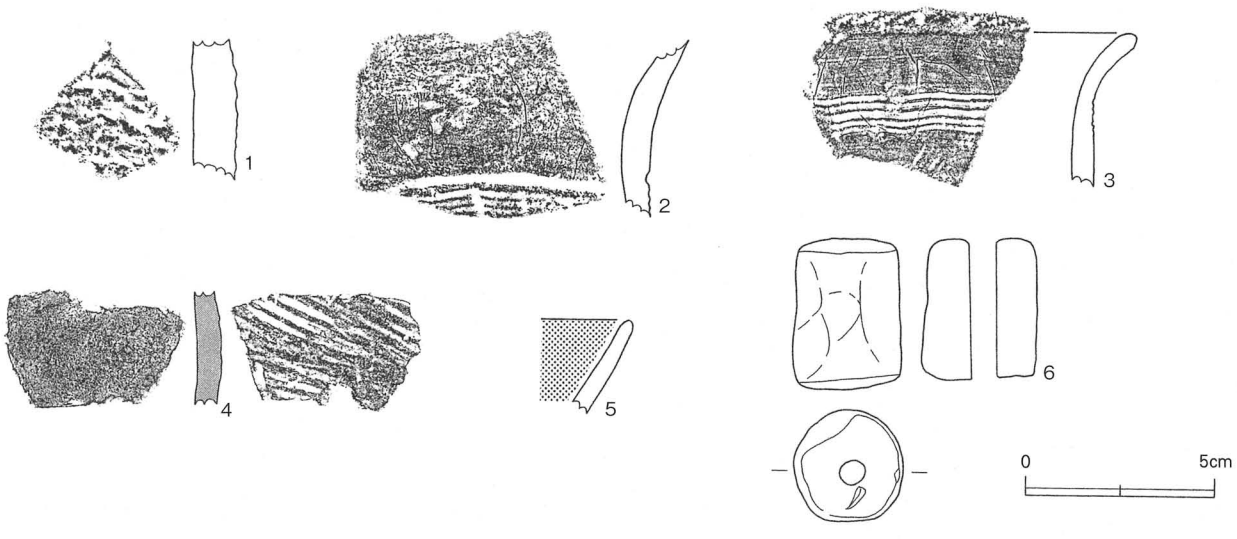
第10図　1号小竪穴出土遺物(S=1/2)



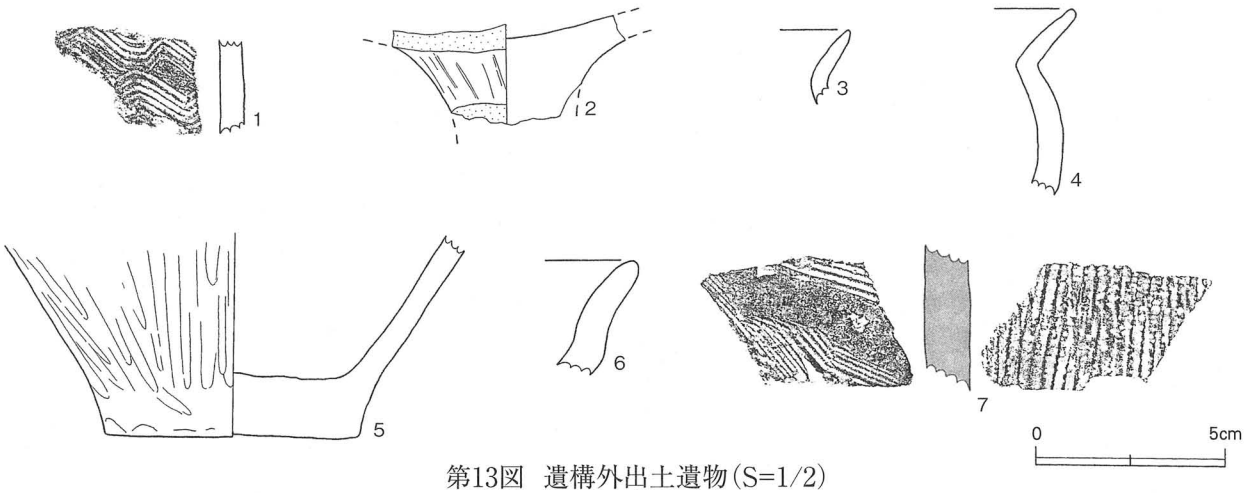
1号性格不明遺構

遺構断面	層	色調	土質	粘性	しまり	混入物/その他
A-A′･B-B′	1	暗褐色	細かい	なし	ややあり	小石・遺物含
	2	暗褐色	細かい	なし	あり	
	3	暗褐色	細かい	なし	なし	大小様々な石を主体
	4	黄褐色	細かい	なし	ややあり	岩等含む二次堆積ローム土

第11図　1号性格不明遺構断面図(S=1/60)



第12図　1号性格不明遺構出土遺物(S=1/2)



第13図　遺構外出土遺物(S=1/2)

している。内面は不定方向にナデ調整している。平底の底部には目立った痕跡はない。6 は壷の口縁部である。屈曲外反する形状で内面は縦方向のナデ・ミガキがみられる。7 は須恵器甕の体部片である。平行叩きを密に施している。内面はナデ調整と木材の小口でナデたような調整痕跡をとどめている。

Ⅳ　調査の成果とまとめ

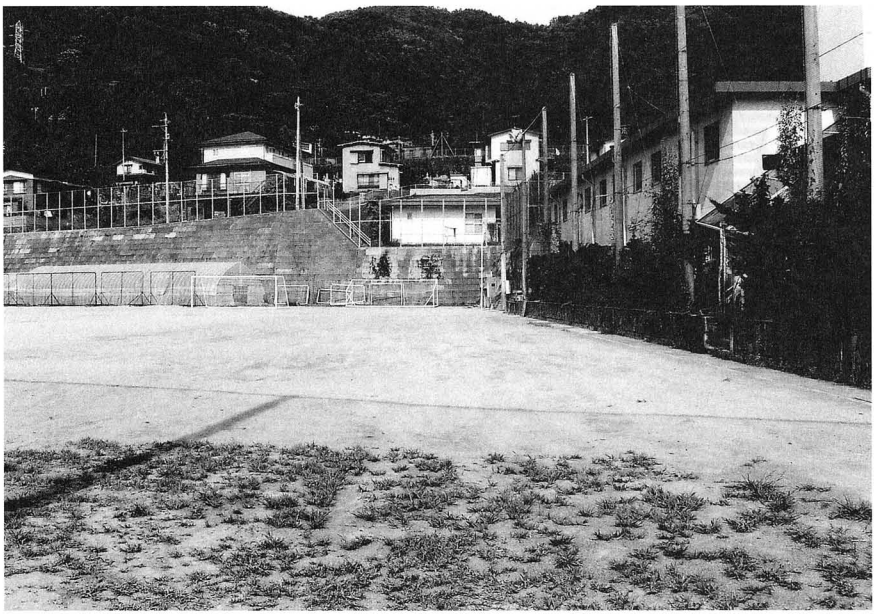
今回の調査では遺構が少ないながらも検出され、遺物も各時代のものが出土した。当該地は過去の学校建設に伴う造成により土地の改変が大規模に行われていることが確認された。この地に学校が建設されたのは明治 30 年のことである。諏訪郡立諏訪実科中学校として創立された同校校舎は現在の敷地南端に建てられ、以降生徒数の増加などに伴い北側に増築を続けていった。今回調査を行ったあたりには、大正 12 年に武術場が建設されたようである。また、翌 13 年には校庭も現在とほぼ同じ範囲まで拡張整備されている。その後、昭和 26 年から校舎と校庭を反転させる形で全面改築が行われた。この第 2 期校舎の頃には、調査区位置に体育館が建てられていたとみられる。そして、昭和 59 年からは現校舎の建設が行われ、再び校舎と校庭の配置は反転することとなり現在に至っている。

明治以降の校舎建設のなかで、今回の調査区を含めた御幣平・大ダッショの両遺跡は大きく失われてしまった可能性がある。ただし、僅かながら確認できた遺構・遺物からは、縄文時代から連綿と人々の活動が続いていたことが分かり、それは大ダッショ遺跡や一時坂遺跡とを含めた、福沢川両岸の一体的なものであることも推測されるものである。特に古墳時代の 5 世紀末頃築造された一時坂古墳を端緒に、御幣平遺跡の石製模造品を有する祭祀的遺構、大ダッショ遺跡で検出された環状集石遺構・土師器配列遺構の大規模な特殊遺構などと、今回検出された竪穴建物跡とは時代的に関連が考えられる。集落域と墓域・祭祀域などがおぼろげながらみえてきたのかもしれない。とは言え、広い台地のほんの一部を調査したにすぎず、遺跡の分布範囲すら把握できていないのが現状である。今後の調査研究によって具体的な様相を解明していかなければならない。

写 真 図 版

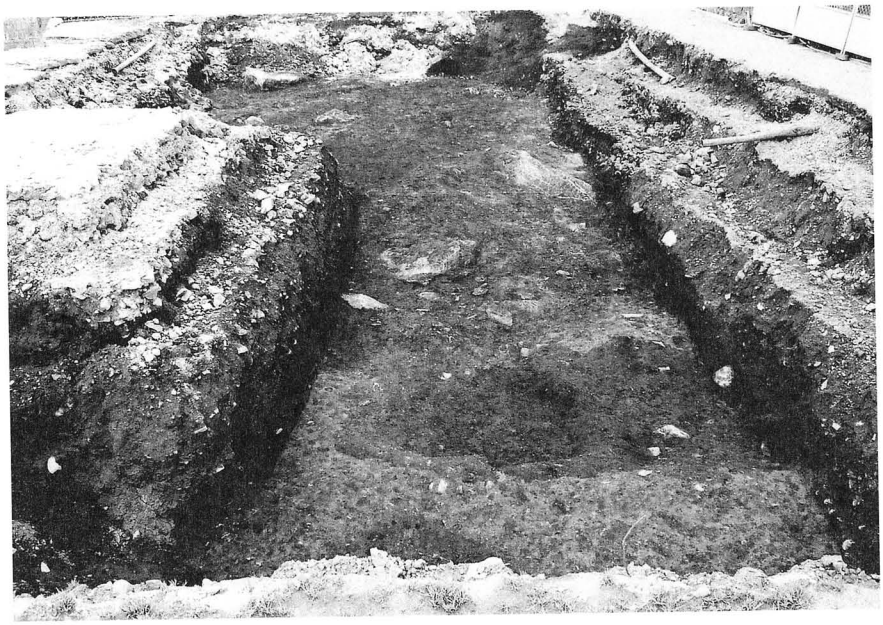
図版1

御幣平A遺跡全景（北から）

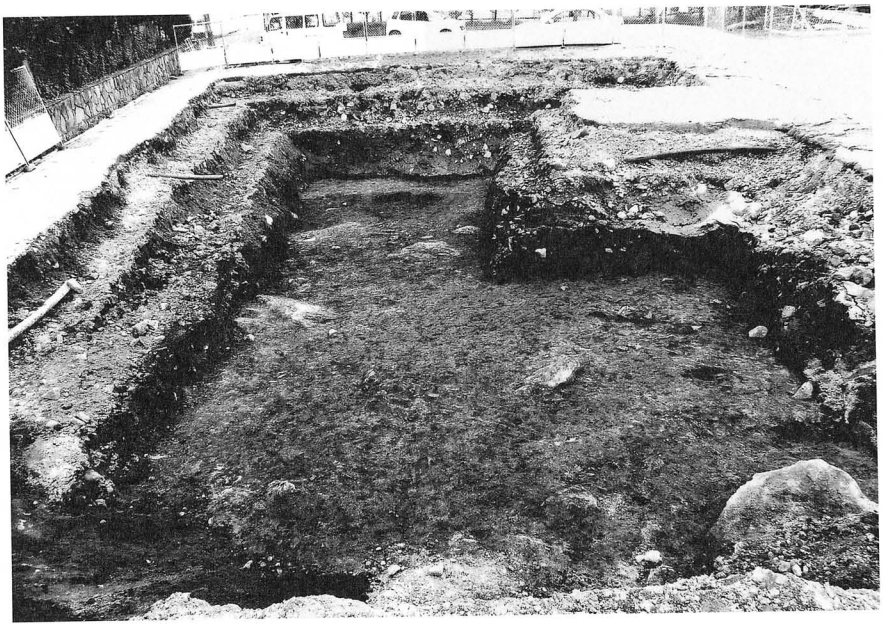


調査区調査前状況（西から）

調査区全景（東から）



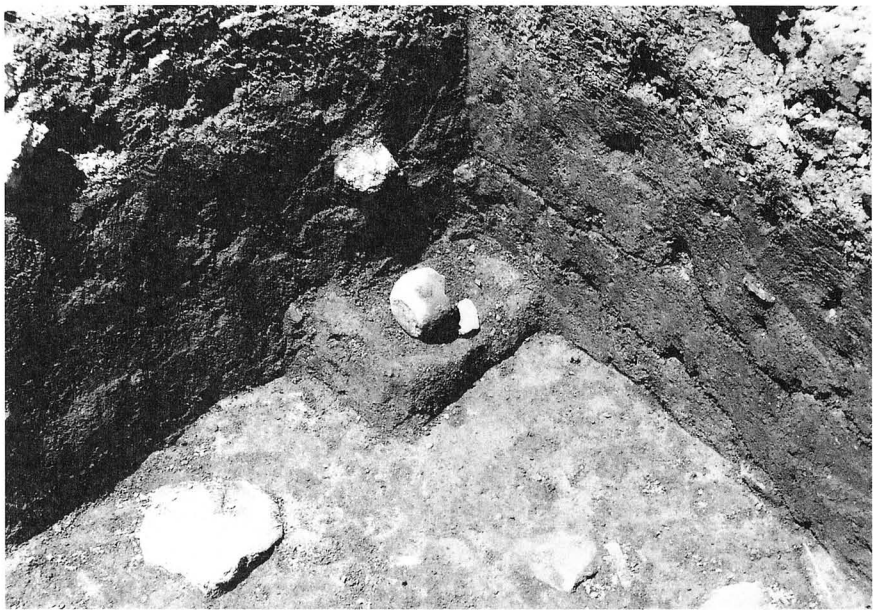
遺構確認面（西から）



遺構確認面（東から）

1号竪穴建物跡（南から）

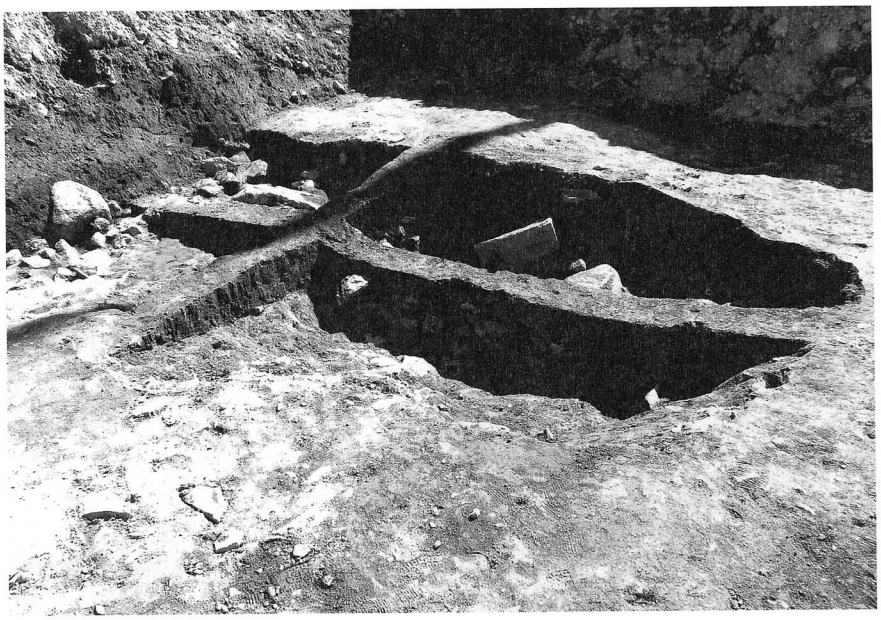
図版3



1号竪穴建物跡土器出土状況
（南東から）

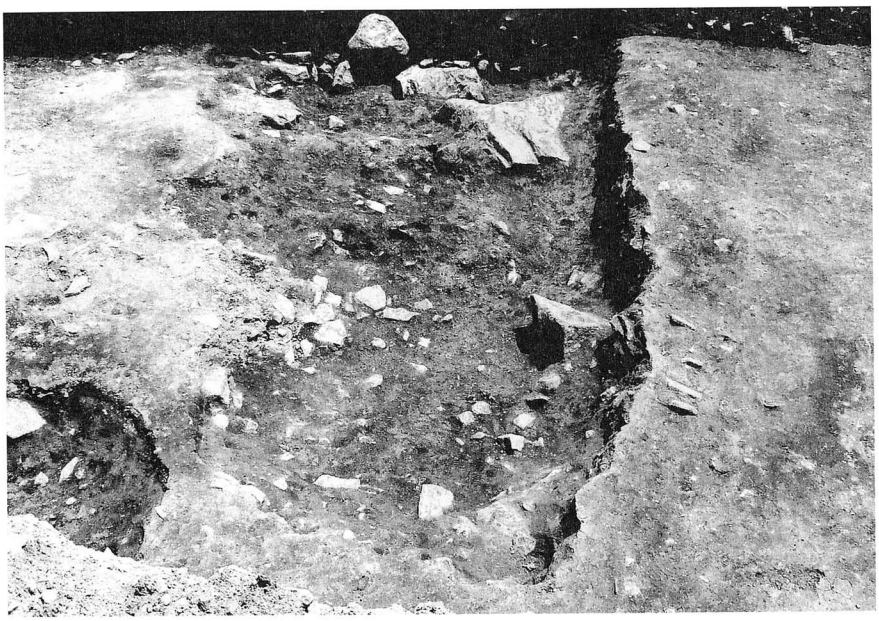
1号小竪穴・1号性格不明
遺構掘り下げ前（南から）

1号小竪穴完掘（南から）



1号性格不明遺構土層堆積状況
（北東から）

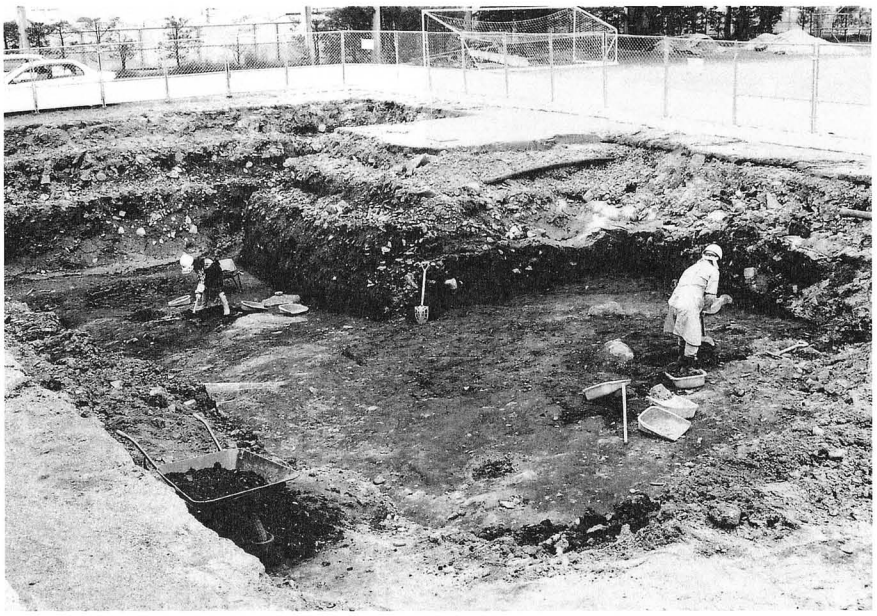
1号性格不明遺構完掘（南から）



1号性格不明遺構完掘（北から）

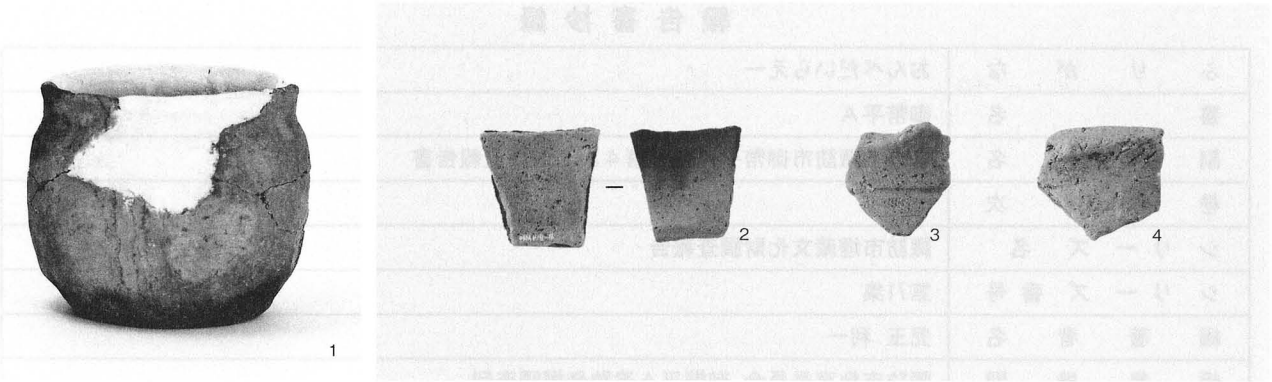
図版5

1号小竪穴・1号性格不明遺構完掘
（北東から）

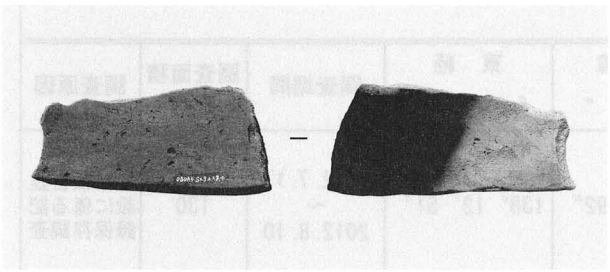


調査風景

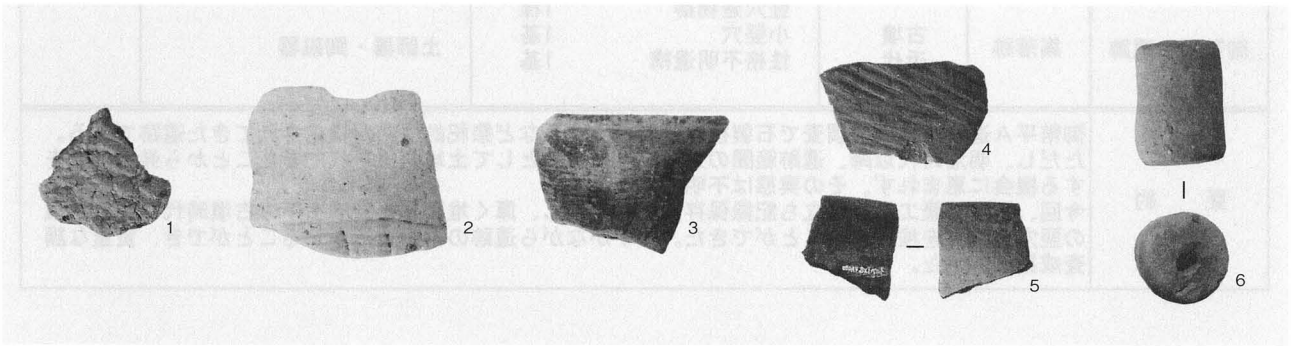
高校生の発掘体験風景



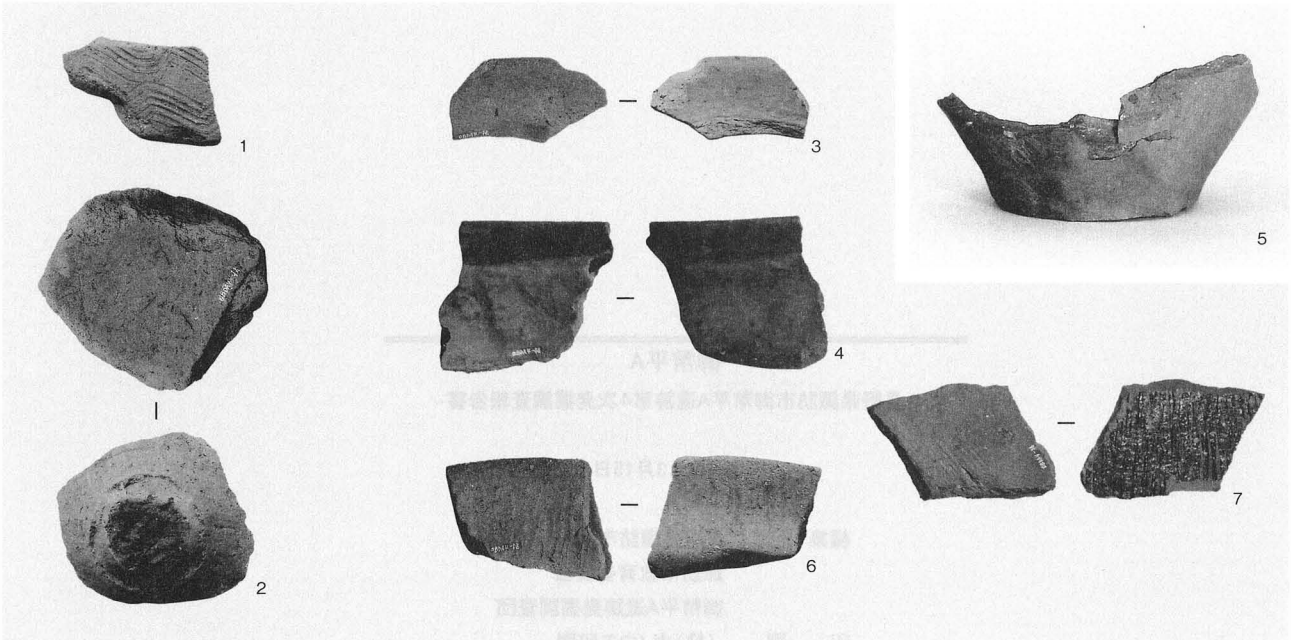
1号竪穴建物跡出土遺物



1号小竪穴出土遺物



1号性格不明遺構出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	おんべだいらえー
書名	御幣平Ａ
副書名	長野県諏訪市御幣平Ａ遺跡第４次発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第71集
編著者名	児玉 利一
編集機関	諏訪市教育委員会 御幣平Ａ遺跡発掘調査団
所在地	〒392-8511 長野県諏訪市高島1-22-30　電話 0266-52-4141
発行年月日	平成25(2013)年3月15日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
おんべだいらえーいせき 御幣平Ａ遺跡	すわし しみず 諏訪市清水 1-10-1	20,206	40A	36° 03′ 92″	138° 12′ 51″	2012.7.17 ～ 2012.8.10	130	学校校舎建設に係る記録保存調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御幣平Ａ遺跡	集落跡	古墳 近代	竪穴建物跡　1棟 小竪穴　1基 性格不明遺構　1基	土師器・陶磁器	

要約	御幣平Ａ遺跡は過去の調査で石製模造品が出土するなど祭祀的性格が推定されてきた遺跡である。ただし、明治時代以降、遺跡範囲の大半が学校敷地として土地利用されてきたことから発掘調査をする機会に恵まれず、その実態は不明であった。 今回、校舎新築工事に先立ち記録保存調査を実施し、厚く堆積した造成土下に古墳時代中～後期頃の竪穴建物跡を検出することができた。わずかながら遺跡の様相を把握することができ、貴重な調査成果となった。

御幣平A

-長野県諏訪市御幣平A遺跡第4次発掘調査報告書-

平成25年 3月15日

編集・発行　長野県諏訪市高島1-22-30
諏訪市教育委員会
御幣平A遺跡発掘調査団

印　刷　(株)オノウエ印刷